

様式第1号(第2条関係)

令和 6年 3月18日

小山市長 様

住所又は居所

申請者 氏名 板 橋 正 人

電話番号

設 立 認 証 申 請 書

次のとおり特定非営利活動法人を設立することについて、特定非営利活動促進法第10条第1項の認証を受けたいので、申請します。

ふ り が な 特定非営利活動法人の名称	とくていひえいりかつどうほうじんおやましちゅうがくせいやきゅうきょうかい 特定非営利活動法人小山市中学生野球協会
ふりがな 代表者の氏名	いたばし まさと 板 橋 正 人
主たる事務所の所在地	小山市扶桑2丁目27番12号
その他の事務所の所在地	
定款に記載された目的	この法人は、中学生に対して、軟式野球の指導や普及、野球大会等の開催に関する事業を行い、健康や体力の増進や軟式野球を中心としたスポーツの振興に寄与することを目的とする

特定非営利活動法人小山市中学生野球協会定款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人小山市中学生野球協会という。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を小山市に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、中学生に対して、軟式野球の指導や普及、野球大会等の開催に関する事業を行い、健康や体力の増進や軟式野球を中心としたスポーツの振興に寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、その目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 社会教育の推進を図る活動
- (2) 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (3) 子どもの健全育成を図る活動

(事業の種類)

第5条 この法人は、その目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 特定非営利活動に係る事業
 - ① スポーツ少年団運営事業
 - ② 野球大会運営事業

第3章 会員

(種別)

第6条 この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という。）における社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会し、その活動を推進する個人及び団体
- (2) 賛助会員 この法人の目的に賛同して入会し、その活動を支援する個人及び団体

(入会)

第7条 会員の入会については特に条件を定めない。

- 2 会員として入会しようとする者は、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとし、理事長は正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。
- 3 理事長は、前項の者の入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(入会金及び会費)

第8条 会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

(会員の資格の喪失)

第9条 会員が次の各号のいずれかに該当するときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会届を提出したとき。
- (2) 本人が死亡し、又は会員である団体が消滅したとき。
- (3) 継続して1年以上会費を滞納したとき。
- (4) 除名されたとき。

(退会)

第10条 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して任意に退会することができる。

(除名)

第11条 会員が次の各号のいずれかに該当するときは、総会の議決により、これを除名することができる。この場合、その会員に事前に弁明する機会を与えなければならない。

- (1) この定款に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけるか、又はこの法人の目的に反する行為をしたとき。

(抛出金品の不返還)

第12条 既に納入した入会金、会費及びその他の抛出金品は、返還しない。

第4章 役員及び職員

(種別及び定数)

第13条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 3人以上6人以下
 - (2) 監事 1人
- 2 理事のうち1人を理事長、2人を副理事長とする。

(選任等)

第14条 理事及び監事は、総会において正会員の中から選任する。

- 2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。
- 3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは3親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び3親等以内の親族が役員の総数の3分の1を超えて含まれることにはならない。
- 4 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることができない。

(職務)

第15条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

- 2 理事長以外の理事は、法人の業務について、この法人を代表しない。
- 3 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故があるとき又は理事長が欠けたときは、理事長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。

- 4 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。
- 5 監事は次に掲げる職務を行う。
 - (1) 理事の業務執行の状況を監査すること。
 - (2) この法人の財産の状況を監査すること。
 - (3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくはこの定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。
 - (4) 前号の報告をするため必要がある場合には、総会を招集すること。
 - (5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、若しくは理事会の招集を請求すること。

(任期等)

第16条 役員任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 前項の規定にかかわらず、後任の役員が選任されていない場合には、任期の末日後最初の総会が終結するまでその任期を延長する。
- 3 補欠のため、又は増員により就任した役員任期は、それぞれの前任者又は現任者の残任期間とする。
- 4 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第17条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

- 第18条 役員が次の各号のいずれかに該当するときは、総会の議決により、これを解任することができる。この場合、その役員に事前に弁明の機会を与えなければならない。
- (1) 心身の故障のため、職務の執行に堪えないと認められるとき。
 - (2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があると認められるとき。

(報酬等)

- 第19条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。
- 2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。
 - 3 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(職員)

- 第20条 この法人の事務を処理するため、この法人に事務局を設け、必要な職員を置くことができる。
- 2 職員は、理事長が任免する。

第5章 総会

(種別)

第21条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会とする。

(構成)

第22条 総会は、正会員をもって構成する。

(権能)

第23条 総会は、次の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散
- (3) 合併
- (4) 事業計画及び活動予算並びにその変更
- (5) 事業報告及び活動決算
- (6) 役員を選任及び解任、職務及び報酬
- (7) 入会金及び会費の額
- (8) 借入金（その事業年度内の収益をもって償還する短期借入金を除く。第49条において同じ。）その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- (9) 事務局の組織及び運営
- (10) その他この法人の運営に関する重要な事項

(開催)

第24条 通常総会は、毎年1回開催する。

2 臨時総会は、次の各号のいずれかに該当する場合に開催する。

- (1) 理事会が必要と認め招集の請求をしたとき。
- (2) 正会員総数の5分の1以上の者から会議の目的である事項を記載した書面又は電磁的方法により招集の請求があったとき。
- (3) 第15条第5項第4号の規定により、監事から招集があったとき。

(招集)

第25条 総会は前条第2項第3号の場合を除いて、理事長が招集する。

- 2 理事長は、前条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から30日以内に臨時総会を招集しなければならない。
- 3 総会を招集するときは、会議の目的たる事項、その内容、日時及び場所を記載した書面又は電磁的方法をもって、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第26条 総会の議長は、その総会において、出席した正会員の中から選任する。

(定足数)

第27条 総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第28条 総会における議決事項は、第25条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 総会の議事は、この定款に別に定めるもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 理事又は正会員が総会の目的である事項について提案した場合において、正会員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の総会の決議があったものとみなす。

(表決権等)

第29条 各正会員の表決権は、平等なるものとする。

2 やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面又は電磁的方法をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

3 前項の規定により表決した正会員は、第27条、第28条第2項、第30条第1項第2号及び第50条の規定の適用については、総会に出席したものとみなす。

4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることはできない。

(議事録)

第30条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 日時及び場所

(2) 正会員の総数及び出席者数（書面もしくは電磁的方法による表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。）

(3) 審議事項

(4) 議事の経過の概要及び議決の結果

(5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及び総会において選任された議事録署名人2名以上が署名又は記名押印しなければならない。

3 前2項の規定に関わらず、正会員全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたことにより、総会の決議があったとみなされた場合においては、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 総会の決議があったものとみなされた事項の内容

(2) 前号の事項の提案をした者の氏名又は名称

(3) 総会の決議があったものとみなされた日

(4) 議事録の作成に係る職務を行った者の氏名

第6章 理事会

(構成)

第31条 理事会は、理事をもって構成する。

(権能)

第32条 理事会は、この定款に別に定めるもののほか、次の事項を議決する。

(1) 総会に付議すべき事項

(2) 総会の議決した事項の執行に関する事項

(3) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

(開催)

第33条 理事会は、次の各号のいずれかに該当する場合に開催する。

- (1) 理事長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の3分の2以上から会議の目的である事項を記載した書面又は電磁的方法により、招集の請求があったとき。
- (3) 第15条第5項第5号の規定により、監事から招集の請求があったとき。

(招集)

第34条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長は、前条第2号及び第3号の規定による請求があったときは、その日から14日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の目的たる事項、その内容、日時及び場所を記載した書面又は電磁的方法をもって少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第35条 理事会の議長は、理事長がこれに当たる。

(議決)

第36条 理事会における議決事項は、第34条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

- 2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(表決権等)

第37条 各理事の表決権は、平等なるものとする。

- 2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について、書面又は電磁的方法をもって表決することができる。
- 3 前項の規定により表決した理事は、前条第2項及び次条第1項第2号の規定の適用については、理事会に出席したものとみなす。
- 4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第38条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
- (2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名（書面もしくは、電磁的方法による表決者にあつては、その旨を付記すること。）
- (3) 審議事項
- (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
- (5) 議事録署名人の選任に関する事項

- 2 議事録には、議長及び理事会において選任された議事録署名人2名以上が署名又は記名押印しなければならない。

第7章 資産及び会計

(資産の構成)

第39条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立当初の財産目録に記載された財産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄付金品
- (4) 事業に伴う収益
- (5) 財産から生じる収益
- (6) その他の収益

(資産の区分)

第40条 この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産のみとする。

(資産の管理)

第41条 この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(会計の原則)

第42条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って、行わなければならない。

(会計区分)

第43条 この法人の会計は、特定非営利活動に係る事業に関する会計のみとする。

(事業計画及び活動予算)

第44条 この法人の事業計画及び活動予算は、理事長が作成し、総会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第45条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収益費用を講じることができる。

2 前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

(予算の追加又は更正)

第46条 予算議決後にやむを得ない事由が生じたときは、総会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。ただし、この追加又は更生によって生じる金額が10万円未満の場合には、理事会の議決によって行うことができる。

(事業報告及び決算)

第47条 この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上、剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(事業年度)

第 48 条 この法人の事業年度は、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

(臨機の措置)

第 49 条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借り入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

第 8 章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第 50 条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の 4 分の 3 以上の多数による議決を経、かつ、法第 25 条第 3 項に規定する以下の事項を変更する場合、所轄庁の認証を得なければならない。

- (1) 目的
- (2) 名称
- (3) その行う特定非営利活動の種類及び当該特定非営利活動に係る事業の種類
- (4) 主たる事務所及びその他の事務所の所在地（所轄庁変更を伴うものに限る。）
- (5) 社員の資格の得喪に関する事項
- (6) 役員に関する事項（役員の定数に関する事項を除く。）
- (7) 会議に関する事項
- (8) その他の事業を行う場合における、その種類その他当該その他の事業に関する事項
- (9) 解散に関する事項（残余財産の帰属すべき事項に限る。）
- (10) 定款の変更に関する事項

(解散)

第 51 条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
 - (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
 - (3) 正会員の欠亡
 - (4) 合併
 - (5) 破産手続き開始の決定
 - (6) 所轄庁による設立の認証の取消し
- 2 前項第 1 号の事由により解散するときは、正会員総数の 4 分の 3 以上の承諾を得なければならない。
- 3 第 1 項第 2 号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

(残余財産の帰属)

第 52 条 この法人が解散（合併又は破産による解散を除く。）したときに残存する財産は、法第 11 条第 3 項に掲げる者のうち、総会の議決をもって決した者に譲渡するものとする。

(合併)

第 53 条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の 4 分の 3 以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第9章 公告の方法

(公告の方法)

第54条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。ただし、法第28条の2第1項に規定する貸借対照表の公告については、この法人のウェブサイトに掲載して行う。

第10章 雑則

(細則)

第55条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

附 則

- 1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。
- 2 この法人の設立当初の役員は、次に掲げる者とする。
理事長 板橋 正人
副理事長 落合 隆夫
同 高橋 務
理事 手束 公一
同 板橋 広治
監事 小林 純也
- 3 この法人の設立当初の役員の任期は、第16条第1項の規定にかかわらず、この法人の成立の日から2026年3月31日までとする。
- 4 この法人の設立当初の事業計画及び活動予算は、第44条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによるものとする。
- 5 この法人の設立当初の事業年度は、第48条の規定にかかわらず、この法人が成立した日から2025年3月31日までとする。
- 6 この法人の設立当初の入会金及び会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。

1	正会員		入会金	0円	年会費	0円
2	賛助会員	個人	入会金	0円	年会費	1,200円
		団体	入会金	0円	年会費	5,000円

(様式例)

役員名簿

特定非営利活動法人小山市中学生野球協会

役名	氏名	住所又は居所	備考	役員報酬の有無
理事	板橋 正人		理事長	無
理事	落合 隆夫		副理事長	無
理事	高橋 務		副理事長	無
理事	手束 公一			無
理事	板橋 広治			無
監事	小林 純也			無

注1 「役名」の欄には、理事又は監事のいずれかを記載して下さい。

2 「住所又は居所」の欄は、特定非営利活動促進法施行条例施行規則（平成10年10月30日栃木県規則第69号）第2条第3項に掲げる書面（住民票の写し等）により証された住所又は居所を記載して下さい。

3 「備考」の欄には、理事長、副理事長等を記載して下さい。

設立趣旨書

1 趣旨

小山市は「市民ひとり1スポーツ」を目指し、2014年6月に栃木県内初となる「スポーツ都市宣言」を行い、スポーツを「小山のブランド」として、「スポーツによるまちづくり」を推進しています。野球も盛んで、プロ野球界では元ヤクルト・飯原蒼士選手、元ロッテ・成瀬善久選手を輩出し、現役では、ソフトバンク・高谷裕亮コーチ、阪神・白鷗大出身の大山悠輔選手が活躍しています。また、2017年、栃木県民球団「栃木ゴールデンブレーブス」が、2018年、栃木県内初の女子野球チームが、相次いで小山市をホームタウンとして誕生し活躍しています。栃木県学童野球では、2016年度から、絹学童、城東学童、犬塚学童が3連覇しました。

このように本市で野球というスポーツを通じた人間形成や技術力向上がさまざまな形でつくられてきました。また、軟式野球を通じて小・中・高・大のつながりもつくられてきました。しかし、文部科学省の部活動地域移行、教員の働き方改革等で学校教育ではさまざまな改革が行われています。軟式野球を中学校の部活動で行いたいけれども、どうなってしまうのだろうかという不安や、土曜日でも日曜日でも軟式野球を通じて成長させたいけれども、部活動ガイドラインにより、活動が十分でないという子どもや保護者の野球に対する熱い思いに対する受け皿がありません。そのために、私たちは中学校の部活動を応援するとともに、中学校の先生方と地域が一体となった法人を立ち上げます。そして、子どもたちが軟式野球を通じて健やかな成長をしていけるように運営、支援していきます。

2 申請に至るまでの経過

令和5年	8月	5日	法人設立のための準備会発足
	10月	8日	設立準備会の開催
	12月	16日	設立準備会の開催
令和6年	3月	16日	設立総会の開催

令和 6年 3月16日

特定非営利活動法人小山市中学生野球協会

代表者 住所又は居所

氏名

板橋 正人

2024年度 事業計画書
(法人成立の日から2025年3月31日まで)

特定非営利活動法人小山市中学生野球協会

1 事業実施の方針

1) スポーツ少年団運営事業

スポーツの振興を図る事業として、小山市の中学校部活動と連携し、練習や試合の無い日に活動を行い、もっと野球をやりたいという生徒や保護者の支援を行う。また、中学校三年生には上位大会につながる大会に参加し、高いレベルでの競技ができるよう支援を行う。

2) 野球大会運営事業

社会教育の推進及び子どもの健全育成を図る事業として、小山市中学校軟式野球部ならびに近隣市町中学校軟式野球部を対象に11月と3月に交流試合を開催し、運営を行う。この大会は、下都賀地区中体連小山支部野球専門部と共催し、小山地区定住自立圏促進を兼ねて行う。優秀な成績をおさめたチーム及び選手に表彰を行い、チームや選手の励みとしていただく。

2 事業の実施に関する事項

1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1 スポーツ少年団運営事業	(1) 小山市中学生野球協会スポーツ少年団運営	(1) 通年	(1) やすらぎの森グランド他	(1) 10名	(1) 小山市内中学校野球部員	141
	(2) OyamaStarDreams運営	(2) 6月～11月	(2) やすらぎの森グランド他	(2) 4名	(2) 小山市内中学校野球部員3年生	19
	<参加大会> ・ 第6回全国中学生野球大会 in岩手 ・ 第22回全国中学生都道府県対抗野球大会in伊豆 栃木県予選会 関東大会 全国大会	8月 9月 10月 11月	岩手県 栃木県 未定 静岡県	(3) 10名	(3) 小山市内中学校野球部員顧問 小山市内学童野球関係者 高校野球関係者	600
2 野球大会運営事業	(1) 秋季桜杯	(1) 11月	(1) やすらぎの森グランド他	(1) 10名	(1) 小山市及び近隣市町中学校	16
	(2) 春季桜杯	(2) 3月	(2) やすらぎの森グランド他	(2) 10名	(2) 小山市及び近隣市町中学校	16

2025年度 事業計画書
(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

特定非営利活動法人小山市中学生野球協会

1 事業実施の方針

1) スポーツ少年団運営事業

スポーツの振興を図る事業として、小山市の中学校部活動と連携し、練習や試合の無い日に活動を行い、もっと野球をやりたいという生徒や保護者の支援を行う。また、中学校三年生には上位大会につながる大会に参加し、高いレベルでの競技ができるよう支援を行う。

2) 野球大会運営事業

社会教育の推進及び子どもの健全育成を図る事業として、小山市中学校軟式野球部ならびに近隣市町中学校軟式野球部を対象に11月と3月に交流試合を開催し、運営を行う。この大会は、下都賀地区中体連小山支部野球専門部と共催し、小山地区定住自立圏促進を兼ねて行う。優秀な成績をおさめたチーム及び選手に表彰を行い、チームや選手の励みとしていただく。

2 事業の実施に関する事項

1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1 スポーツ少年団運営事業	(1) 小山市中学生野球協会スポーツ少年団運営	(1) 通年	(1) やすらぎの森グラウンド他	(1) 10名	(1) 小山市内中学校野球部員	141
	(2) OyamaStarDreams運営	(2) 6月～11月	(2) やすらぎの森グラウンド他	(2) 4名	(2) 小山市内中学校野球部員3年生	19
	<参加大会> ・ 第7回全国中学生野球大会in岩手 ・ 第23回全国中学生都道府県対抗野球大会in伊豆 栃木県予選会 関東大会 全国大会	8月 9月 10月 11月	岩手県 栃木県 未定 静岡県	(3) 10名	(3) 小山市内中学校野球部員顧問 小山市内学童野球関係者 高校野球関係者	600
2 野球大会運営事業	(1) 秋季桜杯	(1) 11月	(1) やすらぎの森グラウンド他	(1) 10名	(1) 小山市及び近隣市町中学校	16
	(2) 春季桜杯	(2) 3月	(2) やすらぎの森グラウンド他	(2) 10名	(2) 小山市及び近隣市町中学校	16

2024年度 活動予算書
(法人成立の日から2025年3月31日まで)

特定非営利活動法人小山市中学生野球協会

(単位:円)

科 目	特定非営利活動 に係る事業	その他の事業	合 計
I 経常収益			
1.受取会費			
正会員受取会費	0	0	0
賛助会員受取会費	180,000	0	180,000
受取会費計	180,000	0	180,000
2.受取寄付金			
受取寄付金	0	0	0
受取寄付金計	0	0	0
4.事業収益			
野球大会事業収益	600,000	0	600,000
交流会事業収益	32,000	0	32,000
事業収益計	632,000	0	632,000
経常収益計	812,000	0	812,000
II 経常費用			
1.事業費			
(2)その他経費			
会議費	600,000	0	600,000
旅費交通費	19,000	0	19,000
消耗品	24,000	0	24,000
賃借料	8,000	0	8,000
保険料	141,000	0	141,000
事業費計	792,000	0	792,000
2.管理費			
(2)その他経費			
会議費	20,000	0	20,000
管理費計	20,000	0	20,000
経常費用計	812,000	0	812,000
当期経常増減額	0	0	0
当期正味財産増減額	0	0	0
前期繰越正味財産額	0	0	0
次期繰越正味財産額	0	0	0

2025年度 活動予算書
(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

特定非営利活動法人小山市中学生野球協会

(単位:円)

科 目	特定非営利活動 に係る事業	その他の事業	合 計
I 経常収益			
1.受取会費			
正会員受取会費	0	0	0
賛助会員受取会費	180,000	0	180,000
受取会費計	180,000	0	180,000
2.受取寄付金			
受取寄付金	0	0	0
受取寄付金計	0	0	0
4.事業収益			
野球大会事業収益	600,000	0	600,000
交流会事業収益	32,000	0	32,000
事業収益計	632,000	0	632,000
経常収益計	812,000	0	812,000
II 経常費用			
1.事業費			
(2)その他経費			
会議費	600,000	0	600,000
旅費交通費	19,000	0	19,000
消耗品	24,000	0	24,000
賃借料	8,000	0	8,000
保険料	141,000	0	141,000
事業費計	792,000	0	792,000
2.管理費			
(2)その他経費			
会議費	20,000	0	20,000
管理費計	20,000	0	20,000
経常費用計	812,000	0	812,000
当期経常増減額	0	0	0
当期正味財産増減額	0	0	0
前期繰越正味財産額	0	0	0
次期繰越正味財産額	0	0	0